

## 要旨

南海トラフ地震は今後 30 年以内に発生する確率は非常に高く、発生した場合の被害は甚大なものと予想されており、日本の防災対策において南海トラフ地震は喫緊の課題といえる。現在取り組まれている防災対策の現状や問題点を明らかにすべく、本研究では被害想定地域の 1 つである静岡県について、南海トラフ地震対策をハード・ソフト対策の両面から論じる。検証の結果、ハード対策において街の耐震化や津波対策施設の整備の遅れ、海岸保全施設の老朽化の問題があることがわかった。また、ソフト対策では個別避難計画の策定の遅れや、社会情勢による防災訓練の中止や若者の不参加などの問題があることがわかった。本研究では、これらの問題を踏まえ、防災対策における支援策・計画などの進め方や内容の見直し、さらなる県民の防災意識の高揚が必要であることを明らかにする。